

日本の国際関係理論は海外の諸理論、特にアメリカからの輸入に依存し、独自性に乏しいと批判されがちである。本当にそうなのだろうか？本書は主要理論の「輸入」の態様をあらためて検討し、日本での独自性をも浮かび上がらせる一冊。



岡垣知子(国際関係法学科教授)分担執筆  
『日本の国際関係論 理論の輸入と独創の間』  
勁草書房 2016年12月 5000円

中国文学研究者樋口進(1920-1991)氏の巴金研究の全業績を初めて中国語に翻訳。一次資料に裏打ちされた仮説と、歴史、思想、文学の各分野に跨る多面的な思考は、作家の内面に迫るものとして後世の研究者に影響を与えた。



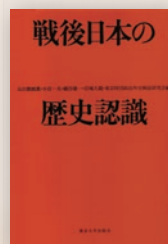
近藤光雄(言語文化学科非常勤講師)訳(樋口進 著)  
『巴金と安那其主義』(『巴金とアナーキズム』)  
復旦大学出版社 2016年1月 38 元

里地里山の持続可能な社会システムの研究の視点から実践例を多数紹介。エコツーリズムがどのようなプラス効果をもたらすかを明らかにし、動植物とともに生きられる豊かな空間や地域社会を取り戻す方策を提示します。



犬井正(学長・国際環境経済学科教授)著  
『エコツーリズム ころる躍る里山の旅  
—飯能エコツアーに学ぶ—』  
丸善出版 2017年4月 2000円

靖国問題、従軍慰安婦問題、歴史認識問題…。戦後日本がいまなお抱えている問題について、第一線の研究者が戦後の歩みからあらためて紐解き、戦争の記憶、とりわけアジア諸国との和解への新たな可能性を探る書。



平良好利(国際関係法学科特任助手)分担執筆  
『戦後日本の歴史認識』  
東京大学出版会 2017年3月 2800円

制度趣旨の理解に重点を置きながら、実務の面で重要な事項を中心に解説しています。法理論と実務の架け橋となることを目指した書であり、事例問題を随所に織り込むなど、会社法を具体的に考えるための必読書です。



高橋均(総合政策学科教授)著  
『実務の視点から考える会社法』  
中央経済社 2017年4月 3000円

ESG(環境、社会、ガバナンス)の観点から自動車産業の未来図を描きながら、この戦略をいかに成し遂げるかという課題を考察。自動車産業のみならず、製造業全般への示唆を探る一冊です。



黒川文字(経営学科教授)著  
『自動車産業のESG戦略』  
中央経済社 2017年4月 2700円



ほんばこ

# 本箱

先生の違った一面に触れることができます。先生の先生方が執筆された新刊情報。授業の中だけでは見られない

## ■ 獨協大学ニュース「本箱」欄に掲載する新刊情報をお寄せください。

本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊情報を募集しています。新刊がありましたら、中央棟2階総合企画課までご持参ください。表紙撮影後、返却いたします。